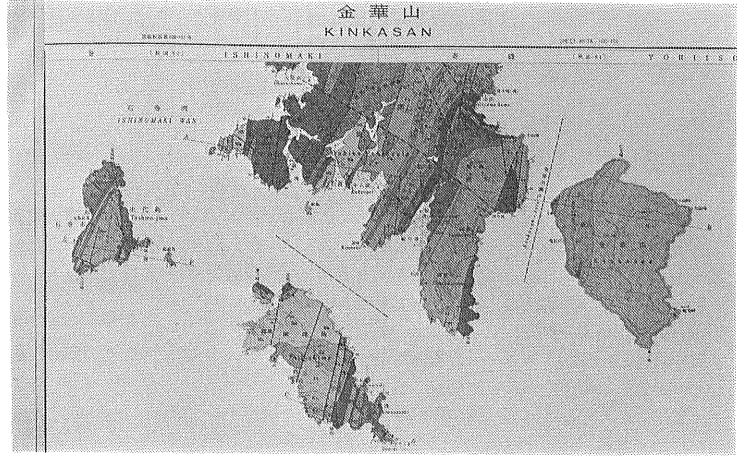
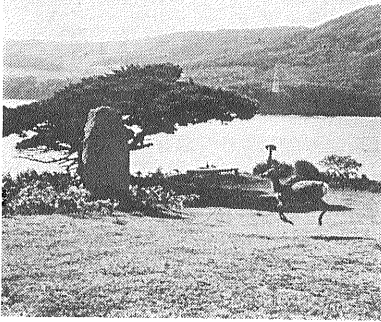


5万分の1 地質図幅 新刊の紹介



金華山 KINKASAN

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 滝沢文教・一色直記・片田正人

発行 工業技術院地質調査所
取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809

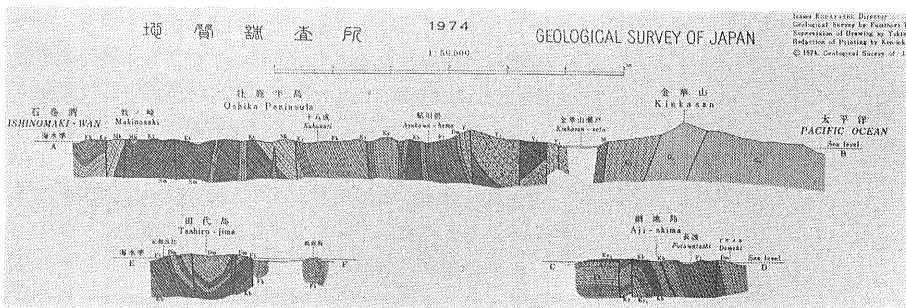
陸前牡鹿郡の東部 太平洋に面せる海中に 屹立する一島あり。これを名づけて金華山と云へり。全山皆花崗石より成れり。唯僅かに陸地に面せる西部の沿岸に変成質の水成岩あるのみ。

古来 里俗の云ひ伝へに由れば 同山より黄金を産出するとの事にて 己に金華山なる名をまづ附せし程

のことなり。今日同山に就き調査を遂ぐるに 金坑と称すべきものもなく 又将来鉱すべき場所あるを発見せず 蓋し里俗の金鉱を産すると思ひしは全く花崗石の一成分なる雲母の閃々輝けるを黄金と誤り認めしに由るものならん。

同山の頂上に黄金神社の祠あり。神体は何を祀りしと謂ふにあらず 只箇様に神とか仏とか名かけて靈妙不可思議の物を為にせしに過ぎざるものなるべし。……(中略)併し此山の高さは四百五十「メートル」もありて 之を覆ふに松・樅・杉・山毛櫸・梅・枹其他の雑樹老木鬱々葱々密林を為し 白昼すら日暮の観あり。

猿鹿の類此中を徘徊し 清泉は潺々として谷間に懸り 殊に南北二方より向ひ来る潮流の相衝突し 烟霧蒙蒙々として山腹以上常に多く 白祭を載ける等 種々の事情に因り 盛夏の候 朝昏袷衣を要する程の気候なれば 此全山を公園となし 避暑の地となさんには 東北地方無二の仙境ならん……(後略)



(扶桑学人 地学雑誌第一集第八巻 p377-378 明治22年8月25日発行 より一原文のまま)